

都城市議会議長 様

提出日 令和5年11月17日
氏名 別府英樹

研 修 報 告 書

- 1 所属会派名 令和創生
- 2 研 修 名 第18回全国市議会議長会研究フォーラム in 北九州
～ 統一地方選挙の検証と地方議会の課題 ～
- 3 受 講 場 所 北九州市小倉北区浅野3-8-1 「西日本総合展示場 新館」
- 4 受 講 期 間 令和5年10月25日（水）～10月26日（木）
- 5 研 修 内 容
10月25日（水）
 - 基調講演
13:20～14:20 「躍動的でわくわくする市議会に」
講師：大正大学教授兼地域構想研究所長 片山善博氏
 - パネルディスカッション
14:40～16:40 「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」
コーディネーター：谷隆徳 パネリスト：勢一智子、辻陽、濱田真理、鷹木研一郎10月26日（木）
 - 課題討議
9:00～11:00 「議員のなり手不足問題への取組報告」
コーディネーター：江藤俊昭 事例報告者：辻弘之、たぞえ麻友、永野慶一郎

6 研修の感想

選挙制度のあり方、地方議会のあり方など、これまではあまり気にならなかったところに焦点を当てた研究会であり、議員としての視野を広げることができた。

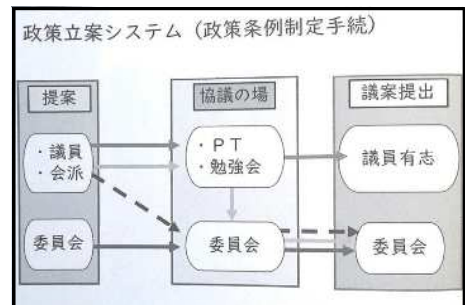
やはり一番の話題が投票率の低迷である。多くの選挙で5割を切るようになった。また、無投票当選も増えてきているようだ。このことは住民自治の劣化であり、ひいては地域民主主義の劣化でもあり、国政の劣化にもつながる問題である。また、二つ目の話題が議会に年齢、性別、職業などが異なる多様な人材が欠如することの意味である。これは、地方議会がいかに社会的課題の解決能力を高められるかということにつながる。某県議会で子どもの虐待禁止条例を策定したことでも分かるが、多様な人材が議員として存在していれば、あのような極端な条例策定にはならなかったのではないかと思う。

7 研修の成果と市政への反映

本市は、なり手不足という状況にはないが、社会的な課題解決能力を高めるという意味からは、多様な人材を増やすことにはさらなる努力を議会として取り組む必要があることは、私自身痛感している。特に職業については、もっといろいろな職業に精通した専門家がいるとよいと感じている。

験を生かせる社会に向けて社会全体の改革が必要な時期に来ている。職業別議員の概況を見ても圧倒的に議員専業が多い。これは、世襲議員が増えていく、つまり多様性のない議会と言うことなのか。

- 議員のなり手不足問題における小規模自治体の課題
 - ① 議員報酬を増額することが困難
 - ② 議会事務局職員の数も少なくなる傾向にあり、議員による政策調査や立案をサポートする機能にも限界がある。
 - ③ 政務活動費も少ないか、不支給となり、自ら手出しして議員活動するよりも、何もしない方が手元に金銭が残ることになる・・・。
- 北九州市における議員立法（政策的なもの）
 - ① 北九州市商店街の活性化に関する条例
 - ② 北九州市中小企業振興条例
 - ③ 北九州市子ども読書活動推進条例
 - ④ 北九州市官民データ活用推進基本条例
 - ⑤ 北九州市子どもを虐待から守る条例



(3) 課題討議「議員のなり手不足問題への取組報告」

コーディネーター：江藤俊昭 事例報告者：辻弘之、たぞえ麻友、永野慶一郎

- なり手不足を解消は議会の存在意義と大きな関連がある。なぜならば、議会は「住民自治の根幹」であるので、地域経営にとって重要な権限はすべて議会が担っている（自治法96条）。なぜ大きな権限があるのかというと、それは多様性に基づく「公開と討議」を経た決議であるからだ。
- 女性、若者に入ってもらわねば、市民の多様な意思が反映されない。
- 兼業兼職の禁止などもなり手不足の要因である。（個人請負300万円までという規制では厳しい。）
- 住民になり手不足の原因を尋ねたところ、選挙の負担が一番多く、次が議会に無関心、議員の仕事に魅力がないという順番になっていた。
- また、議員として市民のために頑張りたいかを尋ねたが、頑張りたい人はわずか13%という結果に終わってしまった。



これが議員12名の枕崎市議会に対する市民の本音だとすれば、かなり厳しい状況であることが分かる。

※ 参考資料（枕崎市議会）

- ・ 議員報酬 議員 27万5千円
- 議長 37万円

